

## 郷土史への扉

国分台明寺の「台明寺日枝神社本殿」が平成29年4月21日、鹿児島県指定有形文化財（建造物）となりました。霧島市で14件目の県指定文化財です。

### 日枝神社と青葉の笛

国分平野の郡田川上流の谷あいにあつた「台明寺」は、古文書によると天武天皇元（六七二）年の創建とあります。国分府中にある\*1大隅国府の東北（鬼門）方向にあることから大隅国を鎮護する寺院として、鎌倉時代からは祈禱寺院として重要な役割を果たしてきました。日枝神社は、台明寺の守護社として創建されたと考えられます。また、日枝神社の境内には、「青葉の笛」の由来となつたダイミョウダケが生えています。江戸時代後期に薩摩藩で書かれた『三国名勝図会』には次のように記されています。

「天智天皇が皇太子のころ、九州巡幸の折にこの地に立ち寄り『笛に使える竹はないか』と聞かれた。台明寺の竹を青葉が付いたまま差し上げたところ、

ろ、笛の音色が素晴らしかった。以後、台明寺の竹を笛竹の材料として朝廷に送るよう定められた。青葉の竹を献上するときは、葉が付いたままの竹を国分府中の\*3鏡の池に浸し、姫城の妙見神社（現在は稲荷神社）に奉納してから、当地域を治めていた税所氏が朝廷に納めた」

また、天慶九（九四六）年に铸造された鐘に「隅州台明寺、是青葉鳳笛之貢御所：」の銘文があることから、かなり早い時期から青葉の竹が献上されていたことが分かります。

### 珍しい社殿様式

神社に残る由来書『日枝神社明細書』によると、日枝神社社殿は建仁三（一一二

## 鹿児島県指定文化財

# 台明寺日枝神社本殿

二〇三）年の創建とあります。「正徳五（二七一五）年宝殿ノ新築アリシヨリ\*4茲一八三年」近年頗ル破壊二傾キタルヲ以テ改築等ノ事ヲ企テ エラ明治廿年二月二起シ」と書かれていることから、江戸時代中期と明治時代に大修復したことが分かります。

日枝神社の本殿は、七間社流造という特殊な造りになっています。流造とは、側面から見た屋根の形状が対称形でなく、正面側（前方）の屋根を長く

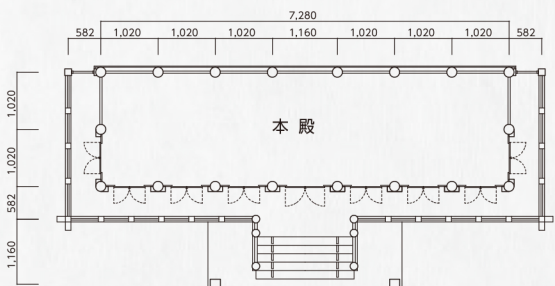
伸ばす造りのことをいいます。

本殿正面の\*5間口は七間、奥行きは二間と、極端に奥行きが浅い構造となっています。間口が七間の本殿を持つ神社は全国的にも極めて少なく、鹿児島では唯一です。西日本では大阪の\*6吉志部神社の本殿に見られますが、奥行は三間であり、奥行二間の形状は非常に珍しく、貴重な社殿様式となっています。

（文責＝鈴）



本殿の裏側。7間造りであることが分かる



日枝神社本殿の平面図



- \*1 大隅国の政治・軍事の中心施設があつた所。
- \*2 祈願の目的で建立または保護された寺。
- \*3 国分向花町の鏡橋付近にあつたと思われる。
- \*4 この時点より以前という意味。
- \*5 ここでは柱と柱の間のことをいう。
- \*6 平成20年に全焼したが平成23年に再建された。